



2022年2月9日

各 位

会 社 名 双 葉 電 子 工 業 株 式 会 社  
代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 有 馬 資 明  
(コード番号 6986 東証第一部)  
問 合 せ 先 執 行 役 員 中 村 正 行  
業 務 管 理 本 部 長  
T E L 0 4 7 5 ( 2 4 ) 1 1 1 1

### 通期連結業績予想の修正、営業外収益および特別損失の計上に関するお知らせ

2021年11月10日に公表いたしました2022年3月期通期連結業績予想数値の修正につきまして、下記のとおりお知らせいたします。また、2022年3月期第3四半期連結累計期間(2021年4月1日～2021年12月31日)における営業外収益および特別損失の計上について、併せてお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2022年3月期通期連結業績予想の修正

##### (1) 2022年3月期通期連結業績予想数値の修正

(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	53,500	△1,200	△800	△3,000	△70.73
今回修正予想 (B)	53,000	△1,800	△1,400	△3,300	△77.80
増減額 (B-A)	△500	△600	△600	△300	—
増減率 (%)	△0.9	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (C) (2021年3月期)	48,826	△3,517	△2,513	△5,430	△128.02
増減額 (B-C)	4,173	1,717	1,113	2,130	—
増減率 (%)	8.5	—	—	—	—

##### (2) 修正の理由

###### 【売上高の減少要因】

生産器材事業においては、当社の主要顧客である自動車業界からの需要が停滞しており、また、韓国および中国市場での回復が想定以上に遅れていることから、売上高は減少する見込みです。また、電子デバイス関連事業においては、主に、タッチセンサーおよび有機ELディスプレイで顧客による半導体不足の生産調整の影響が継続していることなどから、売上高は減少する見込みです。

#### 【営業利益の減少要因】

電子デバイス関連事業では、半導体不足および原油価格高騰により原材料価格が想定以上に上昇したこと、さらに国際輸送費が上昇したことなどにより、営業利益は減少する見込みです。生産器材事業においては、売上高の減少による操業度の低下および鋼材価格が継続的に上昇していることなどにより、営業利益は減少する見込みです。

#### 【経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益の減少要因】

営業利益が減少することから、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益も減少する見込みです。

以上のことから、2021年11月10日に公表いたしました2022年3月期通期の連結業績予想を修正いたします。なお、第4四半期連結会計期間の為替レートは1米ドルあたり110円を想定しています。

(注) 上記の業績予想は、当社が現時点で入手している情報を合理的であると判断する一定の前提に基づいて算出しており、当社としてその達成を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、当社製品の需給の急速な変動、米ドルを中心とした対円為替相場の変動および日本の証券・株式相場の変動など様々な要因により異なる場合があり得ることをご承知おきください。

#### 2. 営業外収益の計上

第2四半期連結累計期間において、為替差損70百万円を計上しておりましたが、その後の為替相場の変動により当第3四半期連結会計期間において、為替差益187百万円を計上いたしました。その結果、当第3四半期連結累計期間において、為替差益116百万円を営業外収益に計上いたしました。

#### 3. 特別損失の計上

電子デバイス関連事業および生産器材事業において、事業環境および今後の見通しを勘案し、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討いたしました。その結果、固定資産の一部について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当第3四半期連結会計期間において、396百万円を減損損失として計上いたしました。

以 上